

セッション概要

日本専門医機構による専門医制度が始まり、当学会の専門医制度も主として総合内科専門医の2階に位置するサブスペシャリティとしての役割が検討されている最中である。

そのためには、卒前教育や卒後教育を通して、「在宅専門医」としての到達目標や必要な経験、技術の習得などを整備した教育・研修プログラムをしっかりと構築していくことが、今後の日本の在宅医療の質を保つ上で重要な意味を持ってくると考える。

このセッションでは、大学病院における教育の実践と、地域での在宅教育プログラムの実践について発表していただくとともに、現時点でわかっている範囲で「在宅専門医制度の現状と今後」についてご報告させていただきたいと考えている。

すでに専門医や指導医としてご活躍の先生、プログラムコースもしくは実践者コースでこれから専門医を目指す先生、専門医を養成するプログラムを実践中、もしくは今後構築予定の先生方の一助となれば幸いである。

演者：太田 光泰

横浜市立大学医学部医学教育学・総合診療医学/横浜市立大学附属病院総合診療科

吉澤 瑛子

亀田ファミリークリニック館山家庭医診療科

橋本 和憲

ひのでクリニック

木下 朋雄

コンフォガーデンクリニック

1 病在連携で Bio-Psycho-Social を診る力を育てる～卒前2年の臨床実習から卒後5年の専攻医教育まで

太田 光泰

横浜市立大学医学部医学教育学・総合診療医学/横浜市立大学附属病院総合診療科

社会構造の変化に伴い、疾病構造も大きく変化した。医療は高度経済成長時代の「働き手を治癒」させる医療から、低成長・少子高齢化・AI時代の「見守る医療」への転換が求められる。文部科学省は医師資格を持つもの全てが最低限のプライマリ・ケアに従事できるよう「コア・カリキュラム」を作成した。厚生労働省は卒後臨床研修制度を改革し、内科、救急、外科、小児科、産婦人科、精神科、地域医療の7科を必修とした。この二つの動きは連動しており、文科省、厚労省が連携し、医学部5年生から初期臨床研修2年目までの4年間をひとつながりとしたアウトカムベースの医学教育を行うことになる。在宅医療専門医制度が検討されているが、医療資源が少ない現場を主戦場とする在宅医は、学生実習・初期研修で得た知識を、自力で、さらには多職種協働において応用、発展させ、実践していく厳しさが求められる。「Bio」の診断は◎◎、だからエビデンス上は□□とするのがbest」「しかし、患者のpsychologicalな状態は△△で」「患者のsocialは××だ。」これらを総合して「エビデンス通りに□□を進めるのはbestではなく、看護、介護と協働し、医師としては○○として治療する。そして、行政には##として関わってもらい、トータルとしてベストなケアを目指す。」という水平連携のマネージメント力が求められる。一方、ベストな垂直連携を行うためには、高度急性期病棟の臓器専門医であっても、垂直連携先での基本的プロセスを共通認識しなければ、最前線の医療現場は混乱する。逆説的かもしれないが、本邦の医療制度下において、社会の要請に応える医療を円滑に進めるためには、在宅医だからこそbioに習熟すべきであるし、大病院の臓器専門医だからこそ“psycho”“social”な配慮に注力すべきであろう。すなわち、医学生から

専攻医まで、また専門医取得後も「病在連携」で“bio”“psycho”“social”の教育、研鑽を継続することが望まれる。

【演者略歴】

学歴	1993年 3月	横浜市立大学医学部卒業
	2016年 3月	千葉大学大学院医学薬学府 先進医療科学博士課程 臨床推論学 修了
職歴	1993年 5月	横浜市立大学医学部附属病院 臨床研修医
	1995年 4月	横浜市立大学第2内科 入局 神奈川県内基幹病院 内科・消化器内科
	2008年 4月	横浜市立大学附属市民総合医療センター 総合診療科 助教
	2010年 4月	千葉大学医学部附属病院 総合診療部 入局 同大学院 循環型地域医療連携システム学 客員准教授
	2013年 4月	神奈川県立足柄上病院 総合診療科 担当部長 兼 地域医療連携室長
	2017年 6月	横浜市立大学医学部 医学教育学・総合診療医学 教授
	2018年 10月	横浜市立大学附属病院 総合診療科 部長

主な資格・役職（学会等）

博士（甲）日本内科学会総合内科専門医 同学会2011年度研修カリキュラム作成委員（総合内科）、日本プライマリ・ケア連合学会 プライマリ・ケア認定医、指導医、代議員 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医

2 亀田家庭医 在宅プログラムの発足

吉澤 瑛子

亀田ファミリークリニック館山家庭医診療科

当院は2006年に、千葉県の亀田総合病院から1時間離れた場所に、家庭医診療科医師のみの無床診療所として設立。在宅は開院当初から実施していて、現在は、強化型在宅療養支援診療所として、0歳～100歳代まで幅広い年齢層に対応している。院内では、在宅の他、外来、透析、妊婦健診、乳児健診など多様な業務を実施しているが、今後増える在宅ニーズに応えられるよう、在宅を重点的に学ぶフェロシッププログラムを開設した。

開設にあたっては、歴史ある亀田総合病院 在宅医療部を主幹施設として、週3日は鴨川で在宅診療と、緩和ケアを重点的に学べる環境を作り、週2日は館山で外来の基礎と家庭医学を学べる混合プログラムとした。2019年にプログラムを発足し、一人が研修を開始した。一学年一人の募集

ではあるが、家庭医の専攻医の同僚が複数いる中で切磋琢磨しながら成長でき、希望に応じて亀田総合病院の複数ある診療科のローテーション調整も可能な環境となっている。開設に向けての学びを共有したい。

【演者略歴】

亀田総合病院で初期研修医を修了し、亀田ファミリークリニック館山家庭医診療科で後期研修医、指導医養成フェロシッププログラムを修了。その後、同クリニックのスタッフとして勤務、現在に至る。資格：家庭医療専門医・指導医、在宅医療認定専門医、日本医師会認定産業医/健康スポーツ医。

利益相反： 無

3 在宅研修の活かし方～小児在宅経験をふまえて～

橋本 和憲

ひのでクリニック

2017年4月から2018年3月までの1年間、医療法人財団はるたか会あおぞら診療所新松戸で在宅専門医研修をおこない、2018年度に在宅医療専門医、指導医を取得した。研修をおこなった、あおぞら診療所新松戸は成人患者約300名、小児患者約120名の診療をしている在宅専門診療所である。また同一法人内に小児在宅医療に特化したあおぞら診療所墨田があり小児在宅医療の経験を積むには最適の環境であった。私は元々内科医であったが、在宅医療に携わるうちに小児在宅医療も提供できるようになりたいと考えるようになり、集中的に小児在宅医療を経験できる医療法人財団はるたか会での研修を希望した。そのため、在宅専門医研修でのポートフォリオ作成にあたって小児患者を中心に作成する計画とした。はじめは小児患者とご家族への対応、疾患への対応に慣れることに注力したが、周囲の理解もあり非常に充実した研修を受けることができた。ポートフォリオ作成は自分の経験をいかに形に残すか、また作成が学びになるかを考え作成した。研修終了後は地元広島に戻り、約1年間在宅専門診療所であるコールメディカルクリニック広島で勤務しながら開業準備をおこない、2019年4月に在宅医療を中心とした「ひのでクリニック」を開設した。開業にあたり年齢を問わず訪問診療を提供できることがとても強みに

なっていると感じている。医療法人財団はるたか会での勤務中に、在宅医療専門医取得および小児在宅の研修を積むにあたり、どのように計画を立て、経験を積んだか、またその経験が自ら診療所を開設し、運営するにあたりどのように活かしているかを考察し、発表する。

【演者略歴】

広島大学医学部医学科卒業。広島厚生連吉田総合病院内科（広島県安芸高田市）、広島赤十字・原爆病院呼吸器科（広島県広島市）、倉敷中央病院緩和ケア科（岡山県倉敷市）、医療法人社団つばさ つばさクリニック（岡山県倉敷市）、医療法人財団はるたか会 あおぞら診療所新松戸（千葉県松戸市）、あおぞら診療所墨田（東京都墨田区）、医療法人社団奏愛会 信愛クリニック（神奈川県鎌倉市）内科・精神科、医療法人社団CMC コールメディカルクリニック広島（広島市西区）を経て2019年4月ひのでクリニック（広島県広島市）開設
日本内科学会（認定内科医、総合内科専門医）、日本呼吸器学会（呼吸器専門医）、日本呼吸器内視鏡学会（気管支鏡専門医）
プライマリケア連合学会（プライマリケア認定医、指導医）
日本在宅医学会（在宅医療専門医、指導医）

利益相反： 無

4 在宅専門医制度の現状と今後

木下 朋雄

コンフォガーデンクリニック

当学会の専門医の認定が10年経過した。学会の合併に伴って新しく日本在宅医療連合学会になっても、日本在宅医学会の専門医制度は引き続き認定業務を行っていく予定である。

しかし、単なる継続ではなく、内容に関しても検討し、時代に合った専門医制度を必要に応じて変更を行い、良いものに作り上げていく必要もある。

一方、我が国における専門医制度は大きな変革の時期にある。専門医機構における基礎学会の研修制度がようやく動き出した状況であり、19番目の新しく作られた「総合診療医」の修練の登録は非常に少ない状態である。そして、サブスペシャリティの議論が今年になってようやく動き出した。

在宅医療の専門医が専門医機構のサブスペシャリティとして認可されるかどうかは非常に難しい状況である。現在の専門医機構の専門医認定に関しての情報提供も行い、当学会の専門医制度について現状と今後についてお話をさせていただく。

【演者略歴】

1986年 筑波大学医学専門学群卒業。筑波大学附属病院で外科の研修
1988年～1992年 筑波大学大学院、博士号取得。
1992年 筑波大学附属病院・他で外科・呼吸器外科の研修
1996年 福島県立医大整形外科教室で整形外科の研修。
1998年 高山整形外科病院に勤務。
2004年 曙光会コンフォガーデンクリニック勤務、翌年同院院長に就任、現在に至る。

【資格・学会役員】

日本在宅医学会 理事・副代表（認定専門医・指導医）
日本プライマリ連合学会（認定医・認定指導医）
日本緩和医療学会（暫定指導医）
日本整形外科学会（専門医）
日本外科学会（認定登録医）

利益相反 : 無